



会長 青木 善明
副会長 長谷川 修身
幹事 桑野 倫夫
例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
例会場 ホテル泉屋 2F
事務所 宮崎県児湯郡高鍋町大字北高鍋 1368-4
 ホテル泉屋内 TEL/FAX 0983-21-1636

第2093回 令和元年11月21日プログラム

- | | |
|----------------------|------------|
| 1. 点 鐘 | 7. BOX披露 |
| 2. ロータリーソング
我らの生業 | 8. 委員会報告 |
| 3. ビジター・ゲスト紹介 | 9. 会員卓話 |
| 4. 会長の時間 | 10. 次週例会案内 |
| 5. 幹事報告 | 11. 点 鐘 |
| 6. 出席報告 | 12. |

高鍋ロータリークラブテーマ

『新時代につなごう誇りと奉仕の友愛』
 第2730地区ガバナー 喜島健一郎
 中部分区ガバナー補佐 上田 普
 RIテーマ 『ロータリーは世界をつなぐ』
 地区テーマ 『クラブの活性化に務めよう』
 11月の月間テーマ
 ロータリー財団月間

本日の例会案内

- *会員卓話—長野孝吉君、石田喜克君
- *例会終了後理事会開催

次週例会案内 11月28日(2094回)

- *ロータリー財団月間卓話—井上博功君
- *100万円ランチ
- *例会終了後プログラム委員会

第2092例会内容 (11/14)

■会長の時間

直前会長 坂田 師通 君

今月は、経済と地域社会の発展月間・米山月間と思っており、会場に来て、ロータリー財団月間と分かりました。それで、今回用意したのは地域社会の発展という意味で、グンゼの創業者の波多野鶴吉について少しだけお話いたします。

皆様は、グンゼという会社をご存知のことと思います。実際に私がはいているシャツやパンツはグンゼ製品が多くを占めています。

グンゼは明治29年京都府綾部市(旧何鹿郡)に設立されました。当時、産業立国策を唱えていた元官僚の前田正名氏の「今日の急務は、国是、県是、郡是、村是を定むるにあり」という思いに共感した波多野鶴吉が郡是(何鹿郡の進むべき方針)とし蚕糸業発展を志し、その強い思いを「郡是製絲株式会社」という社名に託したのです。波多野は製紙業の経営に最も重要なものは繭でも資本でもなく「社会からも職工からも十二分に信用を得たる経営者その人であり、至誠の人というに他ならない」と語り、「至誠」という言葉を生涯大切にされたことでもあります。更に波多野はキリスト教に出会ったことによって愛の尊さを知ります。「会社は学校と異なり、休



日に教えるのであるから、なかなか骨が折れる。愛がなくては仕事に興味がない。教授法や口先が下手でも、愛でかたまつたような人は仕事に熱心である」とも語っています。「愛と至誠」を胸に刻んで蚕糸業の再生による地域振興と共存共学を目指した人物でありました。

波多野は、安政5年(1858年)丹波国何鹿郡綾部町の大庄屋羽室家の次男として生まれ、8歳で資産家の波多野家の養子となっております。若い頃は遊興に耽り、結果的に波多野家の財産を失ってしまい、実家の羽室家に寄宿するような状態だったそうです。

その後、小学校の教員となっておりますが、子供達の日中の居眠りの原因が家業(養蚕)の手伝いで日夜忙しかったためと知ると、子供の教育のためには地域が豊かになる必要があります。その道筋として地域の蚕糸業振興が必要と考えたのでした。工場で働く工員は養蚕農家の子女が中心で、その人格形成や教育啓蒙を通じて、「自分の娘と思ひ大切に育て、立派な人間にして実家にかえす」という信念で経営に努めたそうでもあります。実際に工女教育を重視し、会社内に教育部を設置して高名な教育者である川合信水を招聘し、自らもその教えを受ける形で社内教育を推し進めました。「善き木に善き果が実り、善き人が善き糸をつくる」として、人格形成こそが優良品の基礎であると盛んに述べていたそうでもあります。

安田財閥の安田善次郎との会見の興味深い逸話が知られています。日露戦争で経営悪化した第三百銀行の救済のため安田財閥が乗り出していたのですが、安田善次郎は第三百銀行の帳簿を眺めながら、極めて少ない担

保に対して莫大な融資残高があることを波多野に問い直しました。それに対して波多野鶴吉は「確かに当社には商品在庫や原料、また高い設備などはないが、帳簿には載っていない素晴らしい従業員が多くおり、これこそが当社の最大の資産である」と答えたそうです。善次郎は「金融家の私に、人を資産として見よとの御意見か？」と問い直すと、「その通り」と鶴吉は述べたそうであり、この鶴吉の経営姿勢の率直さに善次郎は多いに感銘を受け、その場で新たな担保を取らずに融資継続を決定したと言われております。

■幹事報告<文書案内>

幹事 桑野 倫夫 君

*11月のロータリーレート

1ドル=108円

*国際ロータリーより手続要覧と組織規定について。

*甘木ロータリークラブより創立60周年記念式典へのお祝い電報のお礼状



■会員卓話

阿多 美千代 君

<薬物・アルコール依存症について>

依存症(嗜癖行動ということもあります)とは一言でいうと「自分の意志や精神力ではその行動をコントロールできなくなる病気」です。いったん依存症になると、自分自身では止めることはできませんし家族がどれだけ本人を監視したり愛情を注いでも、それだけでは決して改善しない病気です。薬物依存症というと、違法薬物と思いきや浮かべる方が多いかと思いますが、アルコールや処方薬・市販薬も薬物依存症です。最近ではこのような違法性のない薬物の依存症が増えていることが知られています。飲酒やギャンブル、買い物などの行為は「気持ちが良い」「嫌なことから解放される」などといった快感が伴います。快感を伴う物質や行動は「脳内報酬系」という神経回路を活性化させますが、この状態が常に続くとちょっとした脳の刺激によって「その物質を使いたい」「その行為をまたやりたい」という欲動がおきてくるようになってしまいます。言い換えると「脳が自動的に物質や行為を求める」わけで、もはや個人の意思の力や精神力などのコントロールは不可能となります。この強迫的な欲動は使用頻度が増えたり、使用頻度が少なくても強い刺激を得たりすることで強くなると考えられています。時として、欲動によって引き起こされた行動の記憶は自分が本当にしたかった自分の意志に基づいた行動にとって代わり脳の中で自動的に正当化されてしまいます。自分のしたかったことが、依存物質を使う事にすり替わってしまうのです。これは恐ろしい事です。本人にとっても最初は不可解ですが、だんだんと当然の事となり、依存なしでは生きる事が困難にさえ感じていきま



す。依存症とはつまりこのような脳の病気です。いったん脳に形成された依存の記憶は、一生治りません。たとえ、何年か止めていたとしても再発したらコントロールは不可能です。それは脳の病気だからです。依存症の回復には、時間もかかりさまざまな障害が伴います。その状態を乗り越えて生きて行くためには依存症者同士が出会い、励ましあい、互いに癒しあう場所が必要です。

<長崎ダルク>

ダルクとは、薬物に依存している人たちが、「グループ・セラピー」を通し、薬物依存から回復し、社会的にも回復したいという人たちの手助けをする”リハビリ”施設です。

■BOX披露

親睦活動委員長 野添 勝久 君

<ニコニコ・財団・米山BOX>

【桑野倫夫君】本日の「会長の時間」は、直前会長の坂田君よろしくお願ひします。決して青木会長が退会した訳ではありませんので一言。

【茂木晃君】財団月間に因んで。

【野添勝久君】先日は高鍋RCの歯車会参加ありがとうございました。11名の参加を頂き大変良い天候にも恵まれ気持ちよくプレーできました。次回は2月 or 3月頃予定しています。5組位は出来ると思ひますので参加よろしく。

【坂田師通君】すみません。本日は代行の代行で会長の時間です。

【高橋康朗君】先週の誕生日祝いのお返しとして。

【多賀学昭君】ガバナー公式訪問の日は刑務所教護師の大会で沖縄に居り出席できませんでした。お詫びの心を込めて。追伸焼けた首里城を見て悲しかったです。

【川上幸子君】50代最後のお誕生日祝有難うございます。毎日をワクワクで過ごします。



■出席報告

出席委員 向山 健一 君

出席報告 (11/14)

正会員数	40名
出席会員数	27名
ホーム出席率	67.50%
修正出席率	85.00%

